

## 第6学年 社会科 学習指導案

上山市立南小学校 教諭 佐藤 亨樹

### 1 単元名 歴史探偵になろう！ ～結髪土偶の謎に迫る～

#### 2 単元の目標

- ・縄文時代の世の中の様子について、遺跡や地図、年表などの資料で調べ、狩猟・採集の生活が営まれていたことを理解する。 (知識・技能)
- ・土偶の存在意義について、当時の生活の様子や資料から読み取れることを関連づけたり、総合したりして推論し、表現できる。 (思考・判断・表現)
- ・縄文の人々の思いと、現代社会や自分たちとのつながりを考えたり、これから文化財とどう関わっていけばよいかを考えたりする。 (主体的に学習に取り組む態度)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、学習指導要領解説6年の内容(2)「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追及・解決する活動を通して、次の事項を身につけることができるよう指導する。」にあたる。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かり、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

イ 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え表現すること。

このうち、狩猟・採集の生活をしていた縄文時代の人々の様子や思いを、地域から出土した土偶を通して迫っていくのが本単元である。当時の様子と、自分たちの生活や現代社会との関連・つながりを意識したり、今日まで保存・保護されてきた文化財との関わり方を考えたりしていく。

本単元で扱う教材は、山形県寒河江市の石田遺跡で発掘された結髪土偶である。結髪土偶とは、3000年前～2400年前の縄文時代晩期に出現した、頭部に髪を結ったような特徴をもつ土偶である。現在、県内では石田(寒河江市)、添川(鶴岡市)、釜淵(真室川町)の3カ所から出土しており、東北地方で見ると、青森県から山形県中部ぐらまでの分布を示している。結髪土偶の文様や主なデザインは、地域により細かな違いはあるものの、酷似していることから、一定の文化圏が築かれていたと考えられている。土偶の意義については、未解明な部分が多く、祭祀・信仰の道具というのが有力な説である。今回取り扱う結髪土偶は、大正10年にJR左沢線の線路敷工事の際に、大量に出土した遺物の中から発見された。発掘当初は、上半身と左脚が離れた状態で見つかり、同一のものだと気づかれずに寒河江市の大地主、安達又三郎が所有していた。後に上半身は安達家を離れ、居場所を転々とする事になり、最終的に師範学校(現在の山形大学)に流れ着いた。一方の左脚は、近年、安達家から寒河江市に寄贈されたことがきっかけで、山形大学の上半身と同一ということが判明、約90年ぶりに再開を果たした。その後、山形大学博物館が中心となり、上半身と左脚を接合するためのクラウドファンディングを立ち上げた。その結果、

目標額を大きく上回る260万円もの支援が集まり、接合に成功した。

これらの事実から、本単元では3つの視点を考える展開にしていきたい。1つ目の視点は、「文化の交流と意義」である。結髪土偶も縄文土器や黒曜石同様、似ている文様や型式などから、当時の人々は、互いの集落を往来し、物や情報の交換・交流を行っていたことが考えられている。文化交流は、現在も自分たちの生活や社会を豊かにするためになくてはならない要素であり、遥か昔から人の間に根付いていた考え方だったことに気づかせていきたい。2つ目は、「土偶の必要性」である。土偶が何のために作られたのかは、先述した通り不明な点が多い。そこで当時の生活の様子を基に子どもなりの意義を自由に推論させることで、幸せを願う縄文人の思いに寄り添い、現代との共通性を見いだせるようにしていきたい。3つ目の視点は、「文化財保護・継承の大切さ」である。学習指導要領解説には、(2)ア「次のような知識技能を身につけること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。」とある。この中で、「優れた文化遺産を理解すること」とは、「各時代の人々によって生み出され、今日まで保存・保護されてきた文化遺産の大切さを理解すること」である。本単元においての結髪土偶は、縄文の様子を現代に伝える貴重な物証であるとともに、子ども達に「自分たちの祖先や関わってきた大人によって、現在まで大切に受け継がれてきたこと」を伝える教材である。発掘されてから90年間もの間、紛失や破損もなく大切に守り続けられ、多くの人達からの膨大な寄付により接合を果たした事実から、子ども達の中に文化財をより理解しようと努力したり、保護・継承しようとしたりする態度を育てていくとともに、自分たちが住む寒河江の街を捉え直す機会につなげていきたい。

縄文時代は、歴史学習全体の導入部分にあたる。科学が発達した現代においても未だ解明されていない土偶について考えることを通して、残された文化財や資料を見つめることで、探究していく考古学的な面白さも味合わせていきたい。

## (2) 指導観

単元の導入「みつめる」で、寒河江市内の橋（高瀬大橋）に飾られている土偶の写真を提示し、子ども達に「土偶とは何か?」「寒河江市と土偶はどんなつながりがあるの?」など様々な問いを持たせていく。問いに迫るために、縄文人の生活の様子を知ることや縄文時代の寒河江を調べる必要感を生み出すことで、「縄文時代の様子はどのようなものだったのだろうか?」という学習課題を設定する。

その課題を受け、「しらべる」では一般的な縄文時代の暮らしについて、教科書等を用いて「衣」「食」「住」の項目に分けて調べていく。その後、「寒河江に縄文の人達は住んでいたのか?」という問いから、寒河江市郷土資料館を見学し、寒河江市で出土した土器や石器を観察する。また寒河江市教育委員会生涯学習課歴史文化専門員 大宮富善氏の話から、寒河江には県内最大級の広さをもつ「高瀬山遺跡」及びその付近に石田遺跡を含む大小様々な遺跡があること、寒河江市の遺跡分布図などから、縄文人達は山沿いや川沿いに住み、食料を確保しやすくしていたこと、黒曜石、翡翠、塩、土器の出土分布から、交易が存在していたこと、土偶が発見されていることなどを知らせる。これらの活動を通して、子ども達に縄文時代の生活や寒河江市とのつながりについて、具体的にイメージさせ、土偶を作った目的を考えるための根拠となる知識をつかませたい。

「ふかめるI」では、「どうして縄文時代の人たちは、土偶を作ったのか?」という問いに迫っていく。資料は、国宝となっている5体の土偶を取り扱う。子ども達は前時までに学習した知識から、「縄文時代は、他のむらと交流しながら、みんなで協力して平和に暮らしている」という印象を持つと考えられる。まずは、そのイメージを基に土偶の意義を考えさせる。子どもは縄文時代の平和的な部分や、土偶のフォルムから「子どものおもちゃとして作ったのではないか」などの意見を持つことが予想される。そこ

で、追加資料として「縄文時代の遺跡数の変化」、「平均寿命」、「人口の推移」、「気温の変化」などのデータに提示し、「長く生きることが難しかった」という事実に気づかせることで、子どもたちが持つ縄文時代の認識に揺さぶりをかける。「縄文時代は本当に穏やかで安定した時代だったのか」「土偶は単なるおもちゃだったのか」など、「ねり合い」が発生するような新たな問いを生み出すことで、それまでとは違う縄文時代や土偶の認識を形成させたい。「穏やかで平和な狩猟採集生活の中に、厳しい自然との戦いが存在していた」という子ども達が新たに認識した時代背景と、土偶の文様や形から見える縄文人の豊かな美的感覚から土偶の意義についてねり合う。お互いの推論を共有していく中で、縄文人の願いが現代にも続いていることに気づかせていきたい。次に、「ふかめるⅡ」として、寒河江市で出土した結髪土偶の意義を考えていく。結髪土偶のレプリカや CT 画像の観察を通して、結髪土偶の形に込められた思いを想像し、前時に自分たちが考えた土偶認識を基に、結髪土偶の必要性を推論する。また結髪土偶の出土分布図を提示し、結髪土偶がある一定の範囲から出土されている事実から、縄文土器と同じような文化圏があったことに気づかせていく。最後に結髪土偶を所蔵している山形大学博物館学芸員に、自分たちの立てた仮説を発表し評価してもらうことで、物証を根拠として思い思いの推論を行い、過去に思いを馳せることの面白さを感じさせたい。

最後に、「ひろげる」では、山形大学博物館学芸員から、結髪土偶がこれまで保護・継承されてきた経緯を聞くことで、文化財保護・継承の大切さを考えさせたい。また、寒河江市のキャッチコピーである「歴史と文化が織りなす 気品ただよう美しい都市 寒河江」を紹介し、歴史を伝える文化財が寒河江市の街づくりの一端を担っていることを知らせ、「寒河江市民として今後どう文化財と関わっていけばいいのか」をテーマに、自分なりにできることを考えさせていきたい。

#### ・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- 【公平性】：土偶を通して縄文時代の人たちの生活を考えることで、幸せを願うという行為が現在も続いていることを理解し、未来へ繋いでいこうと考えること
- 【連携性】：文化財は、一部の大人達が努力して保護していくのではなく、文化財の意義を理解して、市民ひとり一人ができることを考えて保護・継承していこうと努力すること
- 【責任性】：自分たちが、地域の記憶である文化財をつなげていく一員であることに気づき、行動すること

#### ・本学習で育てたい ESD の資質・能力

- システムズシンキング：土偶があるという事実から、縄文時代の暮らしでは、幸せを願う思いのつながりや交流が行われる豊かな暮らしがあったことを理解する
- 長期的思考力：結髪土偶が長い間地域で守られてきた事実から、自分たちも文化を継承していくことの大切さを考える

#### ・本学習で変容を促す ESD の価値観

- 世代間の公正：幸せを願う文化を大切にすると共に、それを現在の私たちに伝える文化財を未来へ伝えていきたい

#### ・達成が期待される SDGs

- 11:文化財と共に歩む街づくりを考える
- 16:縄文時代の人々の生活を通して、幸せを願う行為が現代も同じように続いていることを考える

#### 4 単元の評価規準

| ア 知識・技能                                     | イ 思考・判断・表現   | ウ 主体的に学習に取り組む態度  |
|---|--|--|
| ①縄文時代の人々は、豊かな自然を生かして、狩猟や採集の生活をしてきたことを理解できる。 | ①結髪土偶の存在意義について、当時の生活の様子や資料から読み取れることを関連づけたり、総合したりして推論し、表現できる。 | ①土偶に込めた縄文の人々の願いと、現代社会や自分たちとのつながりを考えようとしている。<br>②寒河江市民として、これから文化財とどう関わっていけばよいかを考えようとしている。 |

#### 5 単元の指導計画（全6時間）

| 次         | ○主な学習活動 ・児童の発言   | 学習への支援（・）  | 評価（△）<br>備考（・） |
|-----------|--|--|----------------|
| みつめる<br>① | <p><b>問い</b> どうして橋の上に土偶があるのか？</p> <p>○寒河江の橋（高瀬大橋）にある土偶の写真を見て、寒河江と土偶の関係性や縄文時代の様子について疑問を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文時代ってどんな時代かな？</li> <li>・土偶って何？</li> <li>・なんで寒河江にあるのかな？</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">縄文時代の様子はどのようなものだったのだろうか？</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高瀬大橋の土偶の写真を提示することで、日常の風景の中から、未知の土偶に焦点化することで、探究したい問いを生み出せるようにしていく。</li> </ul>   |                |
| しらべる<br>② | <p><b>問い</b> 縄文時代の様子はどのようなものだったのだろうか？</p> <p>○教科書で縄文時代の生活の様子を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・堅穴住居という家に住んでいたのか。</li> <li>・動物の肉や魚、貝、木の実、山菜を食べていたんだね。</li> <li>・土器を使って、料理したり、食べ物を保存したりしていたんだね。</li> <li>・服は麻や毛皮でできていた。</li> <li>・貝塚には、ゴミの他に、人の骨も捨てていたんだね。</li> </ul> <p><b>問い</b> 寒河江にも縄文時代の人々は住んでいたのだろうか？</p> <p>○資料館を見学し、寒河江の遺跡から発掘された遺物の見学をしたり、専門員の方から話を聞いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山沿いや川沿いに住んでいた。</li> <li>・他の地域と交流することで、物を交換したり、技術の教え合いをしたりしていたんだね。今と似ているね。</li> <li>・寒河江では山形県で一番大きい縄文時代の遺跡が発見されていたんだね。</li> <li>・土偶も発掘されていたんだ。</li> <li>・土偶は何のために作られたのかな？</li> </ul> <p>○縄文時代はどんな様子だったのかをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なものを交換したり、技術を教え合ったりしていて、みんなで協力していたんだね。</li> <li>・山菜や木の実を採りにいったり、動物や魚を捕まえたりして、楽しそうだな。</li> <li>・争いごとがなくて、平和な時代なんだね。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">【ここまでで子ども達が持つ縄文時代像】<br/>縄文時代は、他のむらと交流しながら、みんなで協力して平和に暮らしていた時代</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書だけではなく、寒河江市の資料館見学や学芸員の方から話を聞くことによって、教科書の内容を補足したり、寒河江との関連を意識させたりしながら学習を進めていく。</li> <li>・ゲストティーチャーから、土偶の意義について一緒に考えてほしいという願いを伝えてもらうことで、次時の活動に対する必要感を高める。</li> </ul> | △ア①<br>(ノート)   |

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふかめるⅠ①</p> | <p><b>問い</b> どうして縄文時代の人たちは、土偶をつくったのか？</p> <p>○前時までに調べた縄文時代の様子や、及び縄文時代の平均寿命・遺跡数の増減・縄文時代の気温・人口の推移などの資料を基に、結髪土偶が作り出された理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土偶は、子どものおもちゃとしてつくったのかな。</li> </ul> <p><b>新たな問い</b> 縄文時代は本当に平和で穏やかな時代だったのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・31歳までしか生きられないって、今と比べると長生きできなかったんだね。</li> <li>・縄文時代中期にはこんなにあった遺跡数が晩期にはすごく減っている。何があったのかな？</li> <li>・たくさんいた人口もどんどん減っていった。</li> <li>・昔はお医者さんもないし、病気が流行ったのかな。</li> <li>・災害が起きたのかな。</li> <li>・食べ物がなくなってきたのかな。</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【ねり合い後の子ども達が持つ縄文時代像】</b><br/>       縄文時代は、自然や病気などを恐れながらも、他のむらと交流しながら、みんなで協力して生き抜こうとした時代</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害とかが起きたときに大変だから、お祈りするためにつくった。</li> <li>・病気から守ったり、長生きできるように祈ったりするための神様にした。</li> <li>・女の人を形をした土偶が多いから、子孫繁栄できるように、人形にして女の人を大事にした。</li> <li>・大きい土偶もあるから、ムラの守り神にした。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・表「縄文時代と現代との平均寿命比較」、グラフ「縄文時代の遺跡数の変化」などを提示することで、前時までの学習で子ども達が持つ縄文時代の生活像に揺さぶりをかけることで、新たな問いを生み出し、学習をより深めていけるようにする。</li> <li>・根拠を明確にした推論及び発表を意識させ、様々な意見を認めることで、未知のものを明らかにしていく楽しさを味合わせる</li> </ul> | <p>△イ①<br/>(ノート)</p> <p>△ウ①<br/>(ノート・発言)</p> |
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふかめるⅡ①</p> | <p><b>問い</b> 縄文時代の寒河江の人たちは、どうして結髪土偶を作ったのか？</p> <p>○結髪土偶レプリカやCT写真の観察、前時までの子ども達なりの土偶像を基に、結髪土偶の意義を推論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しくつらい時代だったから、いろいろな模様を入れてみんなを楽しませるために作った。</li> <li>・厳しい生活だったから自分の子どもを喜ばせようとおもちゃをつくってプレゼントしたのかな。</li> <li>・寿命が短いから、子どもが長生きするようにつくった。</li> <li>・人が早く死んでしまう時代だから、子どもがたくさん生まれてくるように作った。</li> <li>・子孫繁栄のために、女の人や女の子を大切にするために作った。</li> <li>・結髪土偶はいろいろな場所から見つかっているから、物々交換するときの品物として作ったのかな。</li> </ul> <p>○自分たちが考えた予想を学芸員に発表し、結髪土偶の必要性について確かめ、現代とのつながりを意識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神様に願う習慣は、縄文時代からもあったんだね。</li> <li>・目に見えない病気を恐れるのは、今も一緒だよ。</li> <li>・今と一緒に家族や女性を大事にしたんだね。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・結髪土偶レプリカやCT写真を観察させることで、土偶の文様や形にも注目させていく。</li> </ul>  |  |

|  |   |  |                         |
|--|---|--|-------------------------|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ひろげる①</p> | <p><b>問</b>い私たちは今後どのような気持ちで文化財と関わっていけばいいのだろうか？</p> <p>○結髪土偶が、約90年もの間に多くの人から保存・保護されてきた事実を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・90年間も、壊されたり、無くしたりしないで、大切に保護されてきたんだね。</li> <li>・260万円も寄付が集まるなんて、結髪土偶はとても大切なものなんだね。</li> </ul> <p>○寒河江市のキャッチコピーを紹介し、寒河江市民として、結髪土偶などの文化財とどう関わっていくかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財は、大切にしないと未来の人達も歴史がわからなくなってしまうから、みんなで協力して守っていかなければいけない。</li> <li>・寒河江はさくらんぼと同じくらい歴史を大事にしている町だから、寒河江の文化財をもっと多くの人に知ってもらいたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・寒河江市のキャッチコピーを紹介することで、「歴史」が街づくりのポイントになっていることを知らせ、歴史を伝えるための文化財とどう関わっていくかを考えさせていく。</li> </ul> | <p>△ウ②<br/>(ノート・発言)</p> |
|--|---|--|-------------------------|